

梅雨入り前の晴れ間をねらって実施した山歩き。今回も山は機嫌良く晴天で迎えてくれた。

六甲ケーブルを降り、記念碑台までは少しドライブウェイを歩かされたが、その後は裏街道へ入る。東西に走るドライブウェイを挟んで、南にサウスロード、北にノースロードのハイキングコースがあり、昔から快適な森林浴コースとして親しまれてきた道だ。

ウグイスの軽やかな鳴き声に加え、渡り鳥であるホトトギスの「テッペンカケタカ」「トッキョキョカキョク」の澄んだ鳴き声がひととき大きく冴え渡る。

進むうち、ひよいと出てきた“ビューポイント”。「ダイヤモンドポイント」と呼ばれるここは、若い頃の六甲歩きでよく通過、休憩したところだが、なんでこんな名前が付いたのか、いまだにわからずにいたが今回はじめて納得できた。

どうやら視界の良さからきたのではないかと思う。この一角の樹が伐採され、道標も付け換えられていたが、昔はこの視界が木々の茂みで隠されていたため「なんでだろう...なんでだろう...」だったのだろう。

三国池も久し振りだ。この池は、冬の日曜日にはケーブルで上がり、アイススケートによく来たものだ。ちょっと気温の高い日が続くと、氷の厚さが薄くなり、「ミシッ ミシッ」ときしむ音にこわごわ滑っていた記憶がある。一度誰かが「バーン」と割れた中にはまり、必死で這いあがり焚き火で乾かしたことも...。あれから 40 年以上にも...

摩耶自然観察園のアヤメ・コウホネ他、数種の花がきれいに咲いていた。 みなさんお疲れさん。さてこの次ぎは...。

テレビの気象予報では大型台風の接近をしきりに伝えている。決行するかどうか判断に迷いながら、電話でみなさんの感触を探ってみた。

「暑いし雨も降りそうやから今回は...」との返事を予想していたところ、「準備完了やで...」「降られても大したことない。中止の連絡はないと思っていたで...」など。

嬉しいことにみなさんしっかりその気でスタンバイされていた。「まあ、昼前には降り出すと思うけど」と決行する。

さいわいカンカン照りつける日差しも無く、ひよどり駅からの半日コースを出発。シュンランの葉に似た“ヤブラン”が紫の花を穂の形に付けて咲き始めていた。（ヤブランはラン科ではなくユリ科の花でした。訂正します）

烏原の水源地は、台風期・増水期にそなえて水位を下げていたので、イマイチ景観に迫力を欠いたが仕方ない。

建設当時水没した農家の“石うす 160 個”が埋めてある護岸を確かめながら、のんびり“水と緑の回遊路”を歩き出発点に戻る。

若干時間も余ったので、ここから菊水山の麓に完成した“石井ダム”の見えるところまで足を伸ばしてみた。今年 3 月に完成した新しいダムを下から見上げていると、いつかは今の烏原貯水池の役目もここにバトンタッチされるのだろう、などという勝手な想像をしてしまう。まあ明治のダムの重厚さと、近代的な平成のダムの姿を見届けながら緑の散歩道を後にした。

残暑きびしき時節にしては、台風のもたらすプラスの影響を受けて、曇り空に若干の秋風を感じながら、のどかな散策を楽しんだ半日となった。お疲れさんでした。この次は芦屋ゴロゴロ岳の軽登山です。

今回だけは雨の中の行軍を覚悟しての決行だった。前夜の天気予報では、「よくもって昼まで、午後からはかなりの確立で雨模様」を予報していたし、テレビで見る気圧配置からもその予報は納得できた。といいながらも前日の素晴らしい快晴からは、なかなか素人には受け入れにくいのも事実であった。

当日、何はともあれ降ってはいない朝を迎えほっとする。「これなら歩きはじめは大丈夫」と JR 芦屋駅にみんな集まる。

遠足にゆくらしく、行儀よくやってきた幼稚園児たちが、1 台先のバスに消えてゆくを見て、「ああ 一緒のバスでなくてよかったあ」...こんな小さい子と席を競ってどうするねん...

約 20 分の乗車で標高 500m あたりまで運んでくれる。ラクチン！

まず、奥池を半周し、企業・個人の別荘が点在するアスファルトのゆるやかな道を登ってゆく。

すぐに 565.6m のゴロゴロ岳山頂に到着。なんとあっけないことか。「もう少し手前でバスを降りればよかったかな」と反省しながら、記念写真を撮りすぐに先に進む。

道がわかりにくい。カンカン照りの 8 月に下見で歩いたコースは、かなりきつかったため、本番では別のコースを歩くこととしたのだが、どうも地図上の登山道と実際の道に食い違いがあるようだ。何度か地図と磁石で方向を確認しながら進む。あまり歩かれていないコースのためか、せっかくの道標もなかば朽ちかけたものばかりではっきりしない。途中昼食休憩をとりながら、だんだん狭くなる笹道を下り、やがて元の奥池にたどり着く。

帰宅後、再度地図で確認したが、どう見てもこの山は地図上の道路と実際のコースに食い違いがあるのは確かなようだ。まあこのコースももう歩くことはないだろう。

今年も師走を迎え、あわただしいそんな世間の風をよそに、いつもの仲間がのんびりと再度山大師道を歩いた。

例年になく早々とやってきた寒波に、寒い行軍を覚悟していたが、風が無かったことも幸いして、さほどきびしい山歩きとはならなかったことは幸いであった。

今年の紅葉は結構長持ちしていたが、さすが 12 月までもちこたえてくれることを望むのは無理。それでも所々で“奥手のもみじ”が最後の彩りを添えてくれた。

新神戸からのゴンドラを“風の駅”で途中下車。いきなりとりついた布引ハーブ園外周の急な丸太の階段にフーフーいいながらもすぐにハーブ園の Teppen に着く。

ここからは、市が原への静かな下り。橙々色の小粒な実をたくさん付けた“ヘクソカズラ”、温かそうな寝袋から顔を覗かせたような格好で目を引くピンクの“マユミ”の実、いつ出会っても滑稽な姿の“トキリマメ”のおどけた姿の実、房状にぶら下がっている青紫の“洋種ヤマゴボウ”の実。この時期は花より実のオンパレードといったところか。そうそう花の少ないこの時期に、清楚な姿で咲いていた“サザンカ”を忘れるところだった。

日だまりの温かそうな修法が原で弁当を済ませて、大師道を下る。その昔、攝津の国の村民の民意を汲み、官民一丸となって造ったという由緒ある“猩々池”も今はカラッポ。当時の水深は 24m もあったらしいが今はその面影はほとんどない。

新緑の頃には、神戸市民の森林浴コースのひとつとしても親しまれ、結構にぎわう大師道も、ちょっと季節が外れると静かな山歩きを楽しませてくれるコースでもある。

以前からコース設定を考えていた「須磨アルプス」だったが、やっと順番が回ってきた。ちょっとコースの状況から一部の方には麓散策コースを歩いていただくことになったがご容赦を。

六甲花崗岩の風化が進んでいるこのコースは、昔から多くのハイカーに親しまれ、神戸の山を愛する者の心をとらえてきた山のひとつだ。

登山口で準備体操を済ませると、女性メンバーからバレンタインチョコが配られた。半分はバレンタインチョコ、半分はバースデーチョコとしていただきました。ありがとう。

いきなり始まる試練の階段。姿は見えないが群れて飛んできたメジロの鳴き声に、「今年は庭先にメジロがやってこない」「うちもや なんてやろ」 厳しい寒さが関係してる？ 山の餌が豊富？

一休みおいて登ってきた最初のピーク“東山”。この先は景観も一気に変わる“馬の背”となる。

昔はこのガラガラの岩場を少し下れば、花崗岩の割れ目からちよろちよろ流れ出る湧水があり、テントも持たずに登り、その水でコーヒーを作ったり、熱燗をして夜を過ごし、中秋の名月を鑑賞したこともあった。山のグループの時もあったが、ひとりでやってきたこともあった。

今回は楽しい仲間と縦走した。このコースは初めての方もおられたが、こんな手近なところにあって、ちょっとアルペン的な雰囲気を楽しませてくれるのも六甲山系の魅力のひとつとなっている。

大きく拓けゆく西神戸・北神戸の街々。開港を 2 日後に控えた神戸空港、巨大パラグライダーが舞い降りたような神戸ウイングスタジアム。これら“わが街神戸”を眺めながら、足元を確かめ 1 歩 1 歩慎重に進む。誰も滑り落ちなくてよかったね。

最後のピーク“樺尾山”からは、六甲全山縦走コースの「魔の 400 階段」を避け、静かな尾根づたいの森林コースを南下し、須磨離宮公園の裏庭から“侵入”。お疲れさんでした。

小学 5, 6 年生当時の理科の教科書に、火山の種類の中で「コニーデ式火山」として『甲山』が載っていたのを記憶している。コニーデ式火山は安山岩が多く、溶岩が流れにくいところから円すい形の形になるらしい。その横綱級が富士山とすれば、甲山は序二段くらいだろうが、なかなか愛着のわく姿・形をした山だ。JR や阪急電車の車窓から山並を眺めていると、いつもその姿が眼に飛び込んでくる。

阪急「仁川」も「夙川」もごちゃ混ぜの一人が少し遅れての出発。子供の頃には一度は訪れたと思う仁川ピクニックセンターのイメージも沸いてこない。池がありボート遊びができたような記憶もあるが、今は来たことがあるかどうかははっきりしなくなっている。

仁川の左岸の道を少し歩くと「地すべり資料館」が造られていた。阪神・淡路大震災のときに、ここで大きな地すべりが発生し、この地区の多くの世帯が犠牲になられたところだ。

あいにくの休館日だったので見学はできなかったが、また機会をつくって訪れてみよう。悲しい災害を風化させないためにも…。

よく整備された甲山森林公園では、満開の桜とコバノミツバツツジが迎えてくれた。やがて来るみずみずしい新緑をまじかに控えての華やかな演出だ。

途中でふもとコースと甲山山頂コースに分かれ、結構きつい階段を 20 分ほど登れば山頂到着。甲山の山頂は、下からの眺めからは想像できない芝生の円形広場になっていた。

寺の名前としては不思議な感じのする神呪寺を経て、ふたたび公園内に入り、“霧の噴水”や世界から集めた石の“彫刻の小道”を散策しながら森林浴を楽しんだ。お疲れさんでした。

計画当初に予定していた北区丹生山系の北に位置する「志久道」は、「太陽とみどりの道」にも指定され、古くから静かな山歩が楽しめるコースとして親しまれてきたところだ。

しかし、最近ではあまり歩かれなくなったためか、少し道も荒れてきた。特に今年は梅雨入り前の5月の長雨によりさらに荒れてきた模様なので、急拠コースをひよどりごえ森林公園に変更しての実施となった。

ひよどり墓園としあわせの村の間に位置するこの森林公園は、比較的足の便がよく、しっかり整備された森林公園で、山麓バイパスをまたぐ“やまびこ橋”により、南北のブロックがつながっている。

北ブロックはやや起伏の多い森林浴コース、南ブロックは瀬戸内海を見下ろす散策コースで、神戸の市街地や神戸港、明石海峡大橋などが一望できる。今回は南北適当に織り交ぜてのんびりとした半日の時間を楽しんだ。

午後からは、はじめての試みとして、しあわせの村にあるパターゴルフ（18ホール PAR70）をやってみた。

おじさんたちが熱中する本格ゴルフと異なり、誰でもがすぐに楽しめるパターゴルフ。はじめての方もおられたようでしたが如何でしたか？ よく手入れされた18ホールの気持ちのよいコース。新芽がまばゆいグリーンの上で、なかなか思うコース、思う距離に転がってくれず、そこがまたパターゴルフの妙なのか。

そんな中、ゴルフキャリア組のおじさんたちのスコアはさすがでしたね。脱帽…。

まあ、たまにはこんなことも取り入れながらやってゆきましょう。お疲れさんでした。

盛夏真っ只中、実に厳しい陽射しの中での半日ハイキングでした。中でも集合地の神鉄西鈴蘭台駅から、君影町の山道入口までの市街地45分の歩行は、日影も無くジリジリと照りつけてくる太陽とのこんくらべ。

山道に入るや途端に様相は一変し、アスファルトの照り返しも無く、雑木林の日陰にほっとしながら森林浴を楽しむ。途中、ちょっと脇道にそれて岩場の展望台へ。

このイヤガ谷東尾根は、国土地理院発行の地形図にも記載なく、ごく一部の人にしか知られていなかった山道ですが、ひよどり台や君影町の開発後は、地元の人達が親しむコースとなっているようです。

下り主体の一本道で、神鉄ひよどり越駅まで迷わずに歩ける半日コース。

今回は、夏休み中の例会とあって、元気なお孫さんも加わり、平均年齢を3歳も下げてくれる“小さくても頼もしいスケッチ”だったですね。また参加してください。

お疲れさんでした。

誰が名づけたか知らないが、『くるくるバス』のお世話になって、標高 270m あたりの住吉台まで運んでもらう。らくちんでした。

かつては、阪急岡本駅から閑静な住宅街を抜け、トコトコと白鶴美術館の前の坂道を登り、西山谷や大月谷によく足を運んだものだが、今は山麓に永く住んできた住民も高齢化が進み、住民自前のバスが必要となってきたということだろう。

バスを降り軽くストレッチを済ませ、山道に入る。すぐにせせらぎの流れが気持ちいい住吉川を左岸に渡り、打越山への登りになる。

このあたりは、針葉樹・広葉樹の混ざる森林浴には適した混合樹林の中をゆっくり登ってゆく道だ。時期的に“ツルリンドウ”と“コウヤボウキ”の開花と合ったせいか、道の両脇に何度も現れ楽しませてくれる。

途中、打越山山頂へ辿るコースと、水平に辿る森林管理道との分岐では「楽な方へ行こうぜ」と右にとり水平動へ。人生苦労ばかりしてきたせいか、ここにきてやたらと楽をしたがるメンバー揃い。

水平動はやはり楽なもの。途中昼食休憩をとりながら八幡谷を下る。往きはラクチン、下りは長い…。バスで運んでもらった分だけ下りは少し長かったかな？ 途中下りで足を滑らせたところがありましたが、山道は「なんでもないとこ」はありません。滑らない靴底、下りは小股に歩く、両手を空けて歩くなどの気配りをし、お互い加齢によるバランス感覚の低下を補って、安全な山歩きを楽しみましょう。お疲れさんでした。今回は「百丈岩～道場」です。

2003 年 10 月にスタートしたこまくさハイキングも 3 年が過ぎ、今回で 20 回となりました。みんな元気に続けられていることが嬉しいですね。

今回、2006 年を締めくくる例会は、「百丈岩」の名で知られる奇岩そびえる鎌倉峽に案内しましたがいかがでしたか？ 温暖化の影響は望まれるものではないけれど、やはり暖かい日は過ごしやすく、今回のハイキングも穏やかな日差しの中をのんびり歩くことができました。

降り立った神鉄二郎駅は自動改札機があるだけの無人駅。そういえば乗ってきた 4 両編成の準急だったか急行だったかの電車には車掌は乗っておらず、ワンマンカーでしたね。このローカルな鉄道には“暖冬”とは無縁のひとときわきびしい冬の流れが合理化という“寒波”となって確実に押し寄せ、大胆な施策を強いられているということでしょうか。しわ寄せが我々乗客に来ないよう、しっかり安全輸送を願いたいものです。

二郎駅からしばらくの県道沿い歩きもすぐに反れていき、お役目の終わった田んぼを左右に、のどかな田園地帯を進むとやがて雑木林に。

このあたりと鎌倉峽の谷筋とは地形的な段差が大きく、途中 2 箇所 of 急な階段がありました。なかでも 2 つ目の階段には転倒防止の手すりがありましたが、この幅はなかなか微妙なものでした。（こまくさメンバーにはお尻がつかえたという人はいなかったでしょうね）

今回は鎌倉峽の入り口までのコースでしたが、ここから先が変化に富んだ峡谷歩きとなるところで、ところどころ背丈以上の岩を越えたり、木の枝をつかんで進むコースとなります。脚力・腕力・魅力をお持ちの方はあらためてご案内しましょう。

ゴールとなった JR 道場駅。こざっぱりとしたものになっていましたが、ここもまた無人駅。世の中の大きなうねりを感じながらの第 20 回こまくさハイキングでした。

次回も神鉄沿線の静かなハイキングコースです。頑張ってください。